

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

語註・典故・作詩メモ				結句	転句	承句	起句	詩題
躑躅……つつじ 綿亘……つらなりわたる、一面につづいている 積素……つもり重なった白いもの、雪をいう				爽 ○	綿 ○	躑 ●	薰 ○	初夏散歩
				涼 ○	亘 ●	躑 ●	風 ○	
				自 ●	白 ●	千 ○	街 ○	
				有 ●	葩 ○	枝 ○	巷 ●	
				鬱 ●	如 ○	生 ○	獨 ●	
				胸 ○	積 ●	氣 ●	徘徊 ○	(灰韻)
開 ◎	素 ●	回 ◎	徊 ◎					

その他のメモ

四月末散歩に出ると、つつじが一斉に咲き始めていた。一面に白い花をつけたつつじが続く場所は、まるで雪が積もっているように見えた。
 その景色は、爽やかな季節に一層の清涼さを増し、鬱屈した気分を吹き飛ばしてくれた。

読み下し文			
爽涼 <small>そうりょう</small> 自 <small>おの</small> ずから有 <small>あ</small> り 鬱 <small>うつ</small> 胸 <small>きょう</small> を開 <small>ひら</small> く	綿 <small>めん</small> 亘 <small>こう</small> たる白 <small>はく</small> 葩 <small>は</small> 積 <small>せき</small> 素 <small>そ</small> の如 <small>ごと</small> し	躑 <small>てき</small> 躑 <small>ちやく</small> 千 <small>せん</small> 枝 <small>し</small> に 生 <small>せい</small> 氣 <small>き</small> 回 <small>めぐ</small> る	薰 <small>くん</small> 風 <small>ふう</small> の街 <small>がい</small> 巷 <small>こう</small> 独 <small>ひと</small> り徘 <small>はい</small> 徊 <small>かい</small> す
初夏 <small>しよか</small> の散 <small>さん</small> 歩 <small>ぽ</small>			

作詩日	平仄式	名前
平成二九年五月七日	平起式	牛山 知彦

神漢連 九詩期会 詩箋 〔七言絶句〕

語註・典故・作詩メモ 窮秋―おしせまった秋 幽暮―静かなひぐれ 十二月初め 坂東三十三か所観音巡り 第五番相州勝福寺 飯泉観音を訪れた。丁度 境内の数本のイチヨウの大木が 黄葉の盛りであり 実にすばらしかった。	結句	聴 ○	転句	満 ●	承句	巨 ●	起句	窮 ○	詩題
	鐘 ○	地 ●	樹 ●	秋 ○	相州飯泉観音				
	幽 ●	絨 ○	公 ○	古 ●		平起式			
	暮 ●	氈 ○	孫 ○	刹 ●					
	感 ●	景 ●	落 ●	訪 ●	(侵韻)				
	懐 ○	如 ○	葉 ●	観 ○					
	深 ◎	画 ●	今 ◎	音 ◎					

その他のメモ								
--------	--	--	--	--	--	--	--	--

読み下し文			
鐘 <small>かね</small> を聴 <small>き</small> く 幽 <small>ゆう</small> 暮 <small>ぼ</small> 感 <small>かん</small> 懐 <small>かい</small> 深 <small>ふか</small> し	満 <small>まん</small> 地 <small>ち</small> の絨 <small>じゅう</small> 氈 <small>せん</small> 画 <small>が</small> の如 <small>ごと</small> し	巨 <small>きよ</small> 樹 <small>じゆ</small> の公 <small>い</small> 孫 <small>ちやう</small> 落 <small>らく</small> 葉 <small>よう</small> の今 <small>いま</small>	窮 <small>きゆう</small> 秋 <small>しゆう</small> 古 <small>こ</small> 刹 <small>さつ</small> に観 <small>かん</small> 音 <small>のん</small> を訪 <small>たず</small> ぬ
相州 <small>そうしゆう</small> 飯泉 <small>いすみ</small> 観音 <small>かんのん</small>			

作詩日	平成二十八年十二月	名前	宇野次郎
-----	-----------	----	------

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

語註・典故・作詩メモ				結句	轉句	承句	起句	詩題
				今 ○	掠 ●	双 ○	名 ○	名古屋城 (支韻)
				昔 ●	奪 ○	棲 ○	古 ●	
				風 ○	夢 ○	欲 ●	屋 ○	
				流 ○	醒 ●	媚 ●	東 ○	
				知 ○	千 ○	美 ●	品 ●	
				是 ●	金 ○	人 ○	位 ●	
				誰 ○	竹矢 ●	姿 ○	宜 ○	

その他のメモ

読み下し文							
今昔の風流	是れ誰を知る也	掠奪の夢醒めし	千金竹矢う	双棲媚を欲し	美人の姿	名古屋の東は	品位宜し

作詩日 平成 29年 5月 5日

名前 梅村 郁郎

語註・典故・作詩メモ				

結句	転句	承句	起句	詩題
紫 ●	忽 ●	旬 ○	日 ●	
電 ●	來 ○	餘 ○	落 ●	蛙聲引雨
煌 ○	白 ○	紅 ○	蛙 ○	
煌 ○	雨 ●	爐 ●	聲 ○	
閃 ●	伊 ○	望 ●	西 ●	(東韻)
太 ●	誰 ○	雷 ○	又 ●	
空 ◎	力 ●	公 ◎	東 ◎	

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

その他のメモ				

読み下し文				
紫電 煌煌 太空中に閃く	忽來たる白雨 伊れ 誰が力ぞ	旬餘の紅爐 雷公を望む	日落ちて 蛙声 西又東	蛙声 雨を引く

作詩日	平仄式	名前
二九・五・三	仄起式	
		岡嶋 宣昭

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

語註・典故・作詩メモ				結句	転句	承句	起句	詩題
穀雨：二十四節季の一、四月二十日頃 韶：美しい 模糊：ぼんやりしている様 布碁：碁を並べる				独 ●	思 ○	韶 ○	穀 ●	春宵偶吟
				酌 ●	遊 ○	風 ○	雨 ●	
				春 ○	薄 ●	邑 ●	残 ○	
				宵 ○	暮 ●	里 ●	紅 ○	支韻)
				醉 ○	模 ○	聴 ●	映 ●	
				布 ●	糊 ○	鶯 ○	緑 ●	
				碁 ◎	裏 ●	児 ◎	池 ◎	

読み下し文				作詩日	仄起式	名前
独酌春宵酔つて碁を布す 思遊薄暮模糊の裏 韶風邑里鶯児を聴く 穀雨残紅緑池に映え 春宵偶吟				H 29・5・7		武田 一郎
その他のメモ 春も終わりの頃、ぼんやりと思いを遊ばせ、宵の頃には一人酒で碁を並べる						

語註・典故・作詩メモ			
		青衿…学生 棒球…野球	

結句	転句	承句	起句	詩題
時 ○	何 ○	観 ●	青 ○	甲子園 (元韻)
優 ○	以 ●	者 ●	衿 ○	
時 ○	不 ●	嘆 ○	躍 ●	
劣 ●	云 ○	聲 ○	動 ●	
育 ●	聖 ○	甲 ●	棒 ●	
成 ○	地 ●	子 ●	球 ○	
源 ◎	也 ●	園 ◎	繁 ◎	

神漢連 九詩期会 詩箋 〔七言絶句〕

その他のメモ			

読み下し文			
時 <small>とき</small> に優 <small>すぐ</small> れ時 <small>とき</small> に劣 <small>おと</small> るは 育 <small>いくせい</small> 成 <small>せい</small> の源 <small>みなもと</small> なり	何 <small>なに</small> を以 <small>もつ</small> て聖 <small>せい</small> 地 <small>ち</small> と云 <small>い</small> はざらんや	観 <small>かん</small> 者 <small>じゃ</small> 嘆 <small>たん</small> 声 <small>せい</small> す 甲 <small>こう</small> 子 <small>しえん</small> 園	青 <small>せい</small> 衿 <small>きん</small> 躍 <small>やく</small> 動 <small>どう</small> す 棒 <small>ぼう</small> 球 <small>きゆう</small> は繁 <small>しげ</small> し
			甲子園 <small>こうしえん</small>

作詩日	平仄式	平起式	名前
平成二十九年三月三十一日			
			南上清一郎

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

結句	転句	承句	起句	詩題
人 ○	雖 ○	衆 ●	八 ●	富士山畏敬 (虞韻)
間 ○	孕 ●	客 ●	相 ○	
乱 ●	岩 ○	嬉 ○	富 ●	
弊 ●	漿 ○	嬉 ○	嶽 ●	
被 ●	期 ○	万 ●	屹 ●	
天 ○	不 ●	仞 ●	然 ○	
誅 ◎	媿 ●	娛 ◎	孤 ◎	

語註・典故・作詩メモ

八相…威厚清古孤薄惡俗の八種の人相（千変万化の富士）
 富嶽…富士山
 屹然…山などの高く聳えるさま
 衆客…訪れてくる大勢の人びと
 万仞…非常に高いこと
 岩漿…地下に存在する溶融した流動物体…マグマ
 人間（じんかん）…世間 乱弊…国が乱れて人民が疲弊する
 天誅…天が下す罰 ここでは富士の噴火による甚大な天災

作詩日 平成二十九年五月十日

名前 原田 睦夫

読み下し文			
人間 乱弊あらば天誅被らん	岩漿を孕み 期して媿まずと雖も	衆客 嬉々として万仞を娛しむ	八相の富嶽 屹然として孤なり

その他のメモ

転句の「期」を「休（火山）」としたかったが、下三連で不可！

語註・典故・作詩メモ

承句の「弁」は、花卉の意。正字が出ませんでした。
 散り始めた桜花の数片が茅屋に舞込んできた。
 花弁を掬い遊ぶ少女の光景は、一幅の絵を観るようだ。
 春は終わらんとするのか、無情にも一陣の風が吹き起こる。
 少女はいつの間にか居なくなりあとは花吹雪ばかり、。

辨

結句	転句	承句	起句	詩題
窓 ○	春 ○	掬 ●	残 ○	惜春雜詠 (真韻)
前 ○	尽 ●	弁 ●	桜 ○	
人 ○	無 ○	女 ●	幾 ●	
去 ●	情 ○	児 ○	片 ●	
落 ●	風 ○	画 ●	草 ●	
花 ○	乍 ●	景 ●	堂 ○	
頻 ◎	起 ●	新 ◎	親 ◎	

神漢連 九詩期会 詩箋 [七言絶句]

その他のメモ

読み下し文

窓前の人が去って落花頻なり
 春尽きんと無情に風たちまち起こり
 弁を掬う女児画景新なり
 残桜の幾片草堂に親しむ

詩題の読み

作詩日	平仄式	名前
四月一六日	平起式	古川 彌

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

語註・典故・作詩メモ		結句	転句	承句	起句	詩題
浦賀探訪の際に遺跡を破壊した学校が廃校となって現存。 説明によると一時的な児童増への対応のためであったとのこと 工事着手後遺跡が発見されたが中止されず続行された。 二度と復元出来ない歴史遺産に対する意識の欠如を嘆きつつ。 蔓蘿 〓 つた	何 ○	曾 ○	風 ○	無 ○	有感弥生遺跡壊滅	
	人 ○	此 ●	急 ●	童 ○		
	不 ●	祖 ●	揚 ○	学 ●		
	起 ●	先 ○	砂 ○	舎 ●	(支韻)	
	斷 ●	康 ○	卷 ●	蔓 ●		
	腸 ○	樂 ●	葉 ●	蘿 ○		
	思 ◎	地 ●	吹 ◎	垂 ◎		

その他のメモ	読み下し文				作詩日	平起式	名前
	何人か断腸の思いを起こさざらん	曾て此祖先 康楽の地	風急にして砂を揚げ 葉を巻いて吹く	学舎に児無く 蔓蘿垂	平成二九年三月		松本祐輔

語註・典故・作詩メモ

好春華・よき春景色
 グールデンウエークを利用して、子や孫たちと帰省した。
 我が田舎は滝桜で有名な福島県三春町。
 その滝桜は、すっかり葉桜となっていたが、
 周りの山々には山桜が今を盛りとばかりに咲き誇っていた。
 昨年は諸事情により帰省できず、墓参りができなかった。
 到着早々に皆でお墓参りに行った。良い天気にも恵まれて
 本当に素敵な時間を過ごすことができた。

結句		転句		承句		起句		詩題
山 ○		隔 ●		遠 ●		東 ○		
桜 ○		歳 ●		望 ●		風 ○		
古 ●		帰 ○		虹 ○		一 ●		
木 ●		郷 ○		雲 ○		路 ●		
万 ●		先 ○		感 ●		好 ●		
枝 ○		拝 ●		無 ●		春 ○		
花 ◎		仏 ●		涯 ◎		華 ◎		

その他のメモ

今回の帰省中、二日間にわたって虹雲をみた。虹雲が出ると地震の起きる前兆とか、幸運をもたらす兆しとか言われる。
 私は後者を信じたい。

読み下し文							
山 <small>さん</small> 桜 <small>おう</small> の古 <small>こ</small> 木 <small>ぼく</small> 万 <small>ばん</small> 枝 <small>し</small> の花 <small>はな</small>	隔 <small>かく</small> 歳 <small>さい</small> 帰郷 <small>ききやう</small> し先 <small>ま</small> ず仏 <small>ほとけ</small> を拝 <small>はい</small> す	遠望 <small>えんぼう</small> す虹 <small>こう</small> 雲 <small>うん</small> 感 <small>かん</small> 涯 <small>かぎり</small> 無 <small>な</small> し	東風 <small>とうふう</small> 一 <small>いち</small> 路 <small>ろ</small> 好 <small>こう</small> 春華 <small>しゅんか</small>	帰郷 <small>ききやう</small>			

作詩日	平成二九年五月八日	平起式	名前	三浦 昭二
-----	-----------	-----	----	-------

語註・典故・作詩メモ

結句		轉句		承句		起句		詩題
海 ●		富 ●		暖 ●		春 ○		
風 ○		嶽 ●		暖 ●		和 ○		
静 ●		不 ●		水 ●		輕 ○		
吹 ●		觀 ○		温 ○		暖 ●		
晚 ●		当 ○		波 ○		步 ●		
潮 ○		有 ●		韻 ●		沙 ○		
青 ◎		趣 ●		聽 ◎		汀 ◎		

神漢連 九詩期会 詩箋 〔七言絶句〕

作詩日

平起式

名前

三並 哲治

海風静かに吹いて晩潮青し	富嶽は觀えず ^當 に趣 ^{おもむき} 有り	暖暖として水温み波韻を聞く	春和んで輕暖沙汀を歩く	逗子海岸散策
--------------	---	---------------	-------------	--------

語註・典故・作詩メモ	結句	転句	承句	起句	詩題
	一 ●	池 ○	求 ○	子 ●	軽鴨の一家 (陽韻)
	家 ○	面 ●	餌 ●	親 ○	
	驚 ○	突 ○	潜 ○	軽 ○	
	勿 ●	然 ○	游 ○	鴨 ●	
	泳 ●	墳 ○	両 ●	水 ●	
	揚 ○	水 ●	翼 ●	中 ○	
	々 ◎	上 ●	光 ◎	央 ◎	

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

その他のメモ

--

読み下し文

驚く勿れ 一家は揚々と泳ぐ	突然池面から 噴水上がる	餌を求めて潜游 両翼光る	軽鴨の親子 水の中央
------------------	-----------------	-----------------	---------------

作詩日	平成二十九年五月十日
名前	森谷正彦

神漢連 九詩期会 詩箋 [七言絶句]

平起式

作詩日 平成二九年五月

名前

諸星暢義

語註・典故・作詩メモ		結句	転句	承句	起句	詩題
この連休に坐禅の集まりで鎌倉松久寺に出かけた。 雑多なことから逃れて自分を見つめる機会を得た。 新緑と鳥のさえずるなか、静かな気持ちになれた。 鷗盟——世俗間に無縁のまじわり。		鷗 ○	俗 ●	閑 ○	相 ○	訪鎌倉禅堂松久寺 (尤韻)
		盟 ○	事 ●	坐 ●	山 ○	
		小 ●	何 ○	新 ○	盡 ●	
		集 ●	求 ○	陰 ○	處 ●	
		自 ●	塵 ○	午 ●	登 ●	
		晴 ○	外 ●	院 ●	蒼 ○	
		憂 ◎	境 ●	幽 ◎	丘 ◎	

その他のメモ
 松久寺は金沢寄りの山上 住職が代わり大変閑静な處

読み下し文						
鷗 <small>おう</small> 盟 <small>めい</small> 小 <small>しょう</small>	集 <small>しゅう</small>	自 <small>おの</small> ず <small>ず</small> から <small>から</small> 憂 <small>うれ</small> い <small>はる</small> 晴 <small>はる</small>	俗 <small>ぞく</small> 事 <small>じ</small> 何 <small>なに</small> をか <small>か</small> 求 <small>もと</small> めん <small>めん</small> 塵 <small>じん</small> 外 <small>がい</small> の <small>の</small> 境 <small>きょう</small>	閑 <small>かん</small> 坐 <small>ざ</small> 新 <small>しん</small> 陰 <small>いん</small> 午 <small>ご</small> 院 <small>いん</small> 幽 <small>ゆう</small> なり	相 <small>そう</small> 山 <small>ざん</small> 盡 <small>つきる</small>	處 <small>ところ</small> 蒼 <small>そう</small> 丘 <small>きゅう</small> に <small>に</small> 登 <small>のぼ</small> る
鎌倉 <small>かまくら</small> 禅堂 <small>ぜんどう</small> 松久寺 <small>しょうきゅうじ</small> を <small>を</small> 訪 <small>たず</small> ぬ						

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

作詩日	平仄式	名前
平成29年5月10日	平起式	山口 幸雄

結句		転句		承句		起句		詩題
薰 ○	勿 ●	辛 ●	一 ●					
風 ○	謂 ●	苦 ●	望 ○					
颯 ●	以 ●	営 ○	蔽 ●					
颯 ●	貧 ○	営 ○	谷 ●					
意 ●	為 ○	墾 ●	幾 ○					
悠 ○	是 ●	到 ●	千 ○					
然 ◎	景 ●	天 ◎	田 ◎					

読		み		下		し		文	
薰風颯颯	意悠然たり	謂う勿れ	貧以て是の景を為ると	辛苦営々	墾して天に到る	一望	谷を蔽う幾千の田	大山千枚田	

語註・典故・作詩メモ

○幾千 数千ではなく「千に近い」のつもり。
 5月の連休に南房総鴨川の大山千枚田へ行った。
 広い谷を棚田が山の上まで続いている。
 昔の人が苦勞してこんなところまで耕したのは
 貧しかったからだと言うが、
 (今はそんなことは考えなくてもいい)
 ただ爽やかな風が谷を吹き抜けて、心がゆったりとする。

その他のメモ

- ・田植えの終わった田を何という？ 田植え⇨挿秧
- 秧田 稲の苗を育てる田⇨苗代 秧⇨稲の苗
- ・清の李鴻章は船から瀬戸内海の島の棚田だか段々畑を見て「耕して天に到る。貧なるかな」と言ったという。(孫文説あり)
- ・転句と結句？ 「只今…」で納めようとしたが…